

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070000254		
法人名	社会福祉法人 育心会		
事業所名	グループホーム 白梅の里		
所在地	〒824-0205 福岡県京都郡みやこ町犀川久富1616番地 Tel 0930-42-0637		
自己評価作成日	平成29年08月17日	評価結果確定日	平成29年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年09月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中にある昔懐かしい日本家屋、庭では梅や桜を鑑賞でき、裏の畑には野菜や花を植えたりして四季を感じる事が出来ます。施設として設計していない分、内部は不便な点多々ありますが、職員は時間に追われることなく、利用者様との対話を大事に考え、日中はほとんどの方が居間で一緒にゆったりと過ごされます。一方、季節ごとのドライブや外食、調理の好きな利用者様と昼食クッキングも楽しんでます。
高齢者に馴染み深い家屋ではありますが木造のため、スプリンクラー・防火壁・自動火災報知設備を設置、また夜勤職員に加え宿直員を置く、母体法人と連携を図る等、災害時の対応についても取り組みを重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季を感じられる自然豊かな郊外に、民家改造のグループホーム「白梅の里」がある。格子戸を潜り、手入れの行き届いた庭園を眺めながら玄関を入ると、中央には仏壇や神棚が置かれた開放的な居間があり、家庭的な雰囲気の中、利用者と職員が、楽しそうに会話しながらテレビを観たり、作業をしながら家で生活しているような暮し振りである。月2回の往診体制の協力医と、かかりつけ医の受診で、安心の医療体制が整っている。白梅農園で収穫した野菜を食事に採り入れたり、レクリエーションとして昼食クッキングに取り組み、利用者と一緒に餃子や稲荷ずしを作って食べる等、「食」を楽しめるよう支援している。自治会に加入し、区長を中心とした地域の協力も大きく、今年度はホームを開放して地域の方を招き、交流会を開催する予定である。開設19年目を迎え、リーダーシップのある管理者を中心に内外の充実を図り、更なる安定と発展を目指す、グループホーム「白梅の里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を理解した上で、どういうグループホームをめざすのか、施設長を含め職員全員で話し合いを持った。職員の目に入りやすい各所に掲げ、全職員で共有し実践できるよう、各自が自覚し日々のケアに努めている。	白梅の里の理念として、『思いやり』、『生きる』を支える、『声なき声』を大切にすることを新たに掲げ、目に付きやすい場所に掲示している。職員一人ひとりが理念を意識し、介護に対する想いの統一を図り、利用者の目線になったケアに取り組んでいる。地域密着型事業所として、地域との関係も大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長の協力で、公民館に「白梅の里季刊誌」を掲示して頂いた。その他区長には施設周りの草刈り・台風等の被害の巡回・役場への要請等協力を頂いている。今年は秋に交流会を予定しているが、実施に向けて協力を約束して頂いている。	自治区会に加入し、ホーム周辺の草刈や台風時の巡回、公民館に「白梅の里季刊誌」を掲示してもらう等、日頃から区長の大きな協力を得ている。今年は秋に交流会を開催し、ホームを開放して地域の方を招き、一緒に食事をしながら親睦を深める取り組みを計画している。	保育園児との交流や、小・中学校の体験学習の受け入れ、公民館で行われているサロンへの参加等、利用者の状態に合わせ、地域に出かけたり、外から来て頂く機会を設け、利用者の生き生きとした暮らしに繋げる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治区会に加入し、地域の方々と交流のできる開かれた施設をめざしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の利用者や施設の活動状況を明確に出席者に伝えるよう努め、意見や要望を会議の場を出して頂き検討することで、施設環境の改善やケアの質の向上に活かしている。また詳細に記載した議事録を家族全員へ送付している。	運営推進会議は、利用者や家族、地域代表、介護相談員、町役場担当者、地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月毎に開催して、ホームの運営や取り組み、課題について報告し、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、それらをサービスの向上に活かしている。町主催の認知症カフェの取り組みやホーム周りの環境整備について等、活発に話し合われている。	意見を言いやすい雰囲気の中で、充実した会議が行われているが、元家族や元地域役員、近隣の他事業所管理者、消防署職員、駐在所の警察官、薬剤師等、幅広く委員を募り、地域の課題を話し合い、地域への貢献に繋がる会議を目指していく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、役場担当者及び地域包括支援センター職員に出席して頂き、アドバイスや疑問点等相談している。また、毎月介護相談員の訪問を受けて意見交換をしている。管理者はグループホーム協議会等参加し、情報の共有を図っている。	管理者は役場担当窓口にて、疑問点や困難事例の相談や空き状況、事故等の報告を行い、連携を図っている。運営推進会議に、町役場担当者や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受けている。また、グループホーム連絡協議会に参加し、情報の共有を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族の要望や安全確保のため、車椅子の安全ベルトを使用している事例もあるが、月に一度は会議を開き全職員で検討し、拘束解除の時間を設ける等、廃止に向け努めている。	研修を受講する機会を設け、身体拘束が利用者にも与える影響を理解し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護を目指している。家族の希望により車椅子の安全ベルトを使用しているが、習慣化しないように毎月会議で検討し、確認を行なっている。また、日中は玄関を開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待についての理解を深め、防止するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を検討されているご家族からの相談もあり、制度に関する資料やパンフレットを用意する等、制度を活用できるよう関係機関と連携をとり支援に努めている。	行政主催の研修に参加したり、運営推進会議の中で取り上げた事もあり、また、現在、成年後見制度の利用を検討している家族がいるため、相談を受ける中で、制度に関する理解を深めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請手続きの方法を説明し、関係機関に繋げる支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分な説明のうえで契約の締結を行っている。料金や体制の変更の際も運営推進会議で説明、文書を送付し、理解を得るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内・議事録送付を全家族に行い、面会時等にも意見が聞けるよう意見箱を設置している。また、季刊誌の発行、近況報告書で施設での利用者の様子を伝えている。	意見箱を設置し、月に1回介護相談員の訪問を受け、面会時には職員が家族とコミュニケーションを取る中で、意見や要望を聴き取り、出された意見を運営に反映させている。面会が難しい家族とは電話で話し、要望を聴いている。2ヶ月毎に季刊誌を発行し、近況報告書で利用者の状態や暮らしぶりを報告し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員全員参加の職員会議を開き、意見交換や提案を聞く機会にしている。	毎月1回、17時半から19時まで職員会議を開催している。管理者は、職員全員が発言できるよう工夫し、言いやすい雰囲気の中、意見や要望、提案がたくさん出され、有意義な会議になっている。出された意見や要望は検討し、出来る事から速やかに反映出来るように努力している。また、毎日の申し送り時に職員の気付きや心配事を話し合い、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員には人事考課制度を取り入れている。また、非常勤職員に対してもケアマネや介護福祉士等の資格によって、賃金アップにつなげている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって、年齢や性別による制限は行わず、可能な限り家庭環境等を配慮した勤務体制としている。また、定年後も希望があれば再雇用が可能である。	一人、また一人と、人柄の良い職員が集まり、新人職員を含めた初めての職員会議を10月初めに開催予定で、意思の統一を図り、心をつなげたチーム介護に繋げている。管理者は、職員が特技や能力を発揮して、意欲的に働く事ができるよう、細かな指示を出しながら、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。職員募集は法人で行い、人柄や介護についての考えを優先して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体での研修を行い、職員教育に努めている。	法人全体研修の中で学ぶ機会を設けている。利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員間で話し合い、利用者への言葉かけや対応について常に人権を意識して行うよう努めている。また、白梅の里の理念を基に、利用者一人ひとりの声なき声を大切に介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県社会福祉協議会主催の研修会にはなるべく出席するよう努め、研修後はレポートをまとめ会議の席で発表し、他の職員へも周知するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、お互いにサービスの質を向上するべく、情報の交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面接を行い、本人と話を交わす中で要望や不安を理解し、対応できるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族とも話し合いを行い、具体的な要望や疑問点・不安な点を尋ね、協力体制が取れるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みを受けたときは、居宅介護支援事業所の職員や特養職員とも話し合いの上、必要とする支援を提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の身体能力に合わせて、簡単な洗濯物たたみや料理のお手伝いをして頂いている。女性ばかりなので、料理教室を開いて協力して昼食作りをする機会を設け、楽しんで頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出時の援助や一時帰省等、家族に協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りの見物やみやこ町の名所を訪ねる等の支援をしている。	利用者の友人、知人の面会を歓迎し、利用者の誕生日会に友人が参加される等、旧交を温められるよう、機会や場所の提供に努めている。地元の祭り見物や法人内特養の馴染みの方との交流等、利用者のこれまでの馴染みの関係や関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけ居間で過ごしていただくよう声掛けをし、職員が間に入ってご利用者同士の会話が弾むよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の状況によっては、特養への入居手続きを援助する等、退所後の方向性を決める支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が大幅に入れ替わったので、積極的に利用者に関わり、職員個々の視点での気づきを共有しながら、ケアマネによるご利用者・家族の意向の確認に努めている。	利用者の入れ替わりがあり、新しく入職した職員も数名いることから、職員全員が積極的に利用者との関係作りに取り組み、日々の暮らしの中で、利用者の思いや希望の把握に努め、職員間で情報を共有し、思いの実現に向けて支援している。入居後、他事業所では見られなかった笑顔が見られるようになった利用者もおられ、家族から喜びと感謝の気持ちが寄せられている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の担当ケアマネと連携を図り、生活歴の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況はケース記録に残し、必要に応じて職員で話し合い、状況把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議では医療関係者や家族の意見等も参考にしながら、介護計画を作成するよう努めている。	利用者や家族の意向を採り入れた介護計画を作成し、丁寧に説明を行っている事に対する家族の評価は高い。毎月のモニタリングやケアカンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化があった場合は、家族や主治医と相談し、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌により、個別の現状を共有し、また毎月のモニタリングをもとに、見直しの必要性を検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	畑作りの好きな方には野菜の収穫を手伝って頂いたり、料理の得意な方に料理教室の材料の買い出しを手伝って頂いたり、個別の支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長を通して、地域の方にボランティアをお願いしたり、気軽に施設を訪問できるよう呼びかけをしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	契約時に利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。受診には管理者または看護資格を持った職員が同行し、医師や家族との情報共有に努めている。特養とも連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	契約時に、利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。現在は、ホーム協力医による月2回の往診利用の方と、入居前までのかかりつけ医受診の利用者がおられ、受診はほぼホーム職員が対応している。それぞれの主治医と関係を築き、家族に密に連絡や報告を行い、医療情報を共有しながら、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護資格を持った職員はいるが、介護職として就職しているので、職員全員が個々の気づきを共有できるような関係づくりに努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、管理者がお見舞いに行き現状把握に努め、病院関係者との情報交換をしている。退院後の対応についても、主治医や家族と話し合い、ご利用者にとって良い方法を探している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所としての方針を説明し、ご利用者にとって当施設での介護サービスが充分でなくなった場合には、同法人の特養施設や医療機関への連携による重度化への支援に納得してもらっている。	重度化や終末期に向けた方針について、ホームで出来得る支援について、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、車椅子に対応出来るように、畳敷きだった居間をフローリングに改装する等、出来るだけホームで長く暮らせるよう支援している。医療が必要になった時点で、医療機関や同一法人特別養護老人ホームとの連携により対応し、利用者や家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成しているが、定期的な訓練までには至っていない。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回、夜間想定を重点に内容を変更し避難訓練を行い、内1回は消防署の立ち合いで実施し注意点等指導して頂いている。防火安全対策としてスプリンクラー・防火壁・自動火災報知設備を設置、特養と連携した緊急連絡網の整備や宿直員を置くなど夜間体制を整える等努めている。	避難訓練を2ヶ月毎に実施し、年1回は消防署の協力と参加を得て行っている。夜間想定を重点的に行ない、同法人特養との連携も確認している。自動送信システムによる緊急連絡網の整備や、宿直者を置いて夜間も安心な体制を整える等、防災対策に熱心に取り組んでいる。また、地域の方に見守りを願ひし協力を得ている。非常食、飲料水の備蓄もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の中、特に排泄や入浴等ご利用者のプライバシーに配慮した支援を心掛け、信頼関係を築けるよう努めている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを大切にした介護の在り方について職員間で話し合い、家族のような関係を大切にしながら、敬う気持ちを常に持って利用者へ接し、信頼関係を築く事から始めている。特に、排泄や入浴の場面では、利用者の自尊心や羞恥心に配慮した支援を行っている。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務についても、管理者が日常的に注意し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネジャーがご利用者一人一人が思いを伝えられるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の時間の流れを大切に、自由に過ごしていただけるよう、細かなスケジュールは作らないようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室の方に来ていただいて髪をカットしたり、自分で洋服を選んで着たりできるよう、声掛けをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の畑で収穫した野菜で漬物を作ったり、「食」の楽しみを感じて頂けるよう、職員の昼食時間をご利用と一緒にして賑やかな食事の時間となるようにしている。	業者から仕入れた食材を法人本部に取りに行き、ホームの台所で食事を作って提供している。「クッキングデー」として、稲荷ずしや具だくさんの素麺、ギョーザ作りに取り組んだり、白梅農園で収穫した胡瓜を利用者が慣れた手つきで胡瓜揉みしたり、「食」を楽しむよう支援している。また、職員は持参した弁当で利用者の間に座り、談笑しながら賑やかな食事の時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量が一目でわかるようチェック表を作成し、足りていない場合は家族へ嗜好品を聞き、用意する等配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じ、歯ブラシが使えない方には口腔ケアスポンジを用意する等のケアをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努め、さりげない声掛けや対応で、できるだけ自分で排泄できるようトイレ誘導を行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、排泄チェック表から、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草から察知して、早めの声掛けや誘導を行っている。また、利用者の状態によっては、夜間もトイレ誘導を行い、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、運動の時間を作る等努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望や体調に応じて柔軟に対応できるよう配慮している。	利用者の希望や状態に合わせて、毎日入浴出来るように準備している。柚子湯や菖蒲湯等で季節を感じてもらおう等、入浴を楽しめるよう配慮している。浴槽の下に敷く滑り留めマット、シャワーチェア、手すりの設置等、安全に入浴出来るよう工夫しているが、時々、法人内特養の機械浴を利用して、重度化しても浴槽に浸かって入浴する機会を設けている。現在は、入浴を拒まれる利用者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで休息できている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認を行い、状態に変化があればその都度主治医と相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や掃除の手伝い、配膳等、できる範囲での役割がある。家族の協力を得て、外出・外泊により気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進み全員での外出が難しい中、個別の買い物等で気分転換を図っている。	「お蕎麦を食べたい」との利用者の声を聴いて、全員で蕎麦を食べに出かけたり、平尾台や北九州市立農事センターへの外出レク、菖蒲見学、ショッピングを兼ねておやつを食べに出かける等、利用者の気分転換に取り組んでいる。気候の良い時期には、庭や畑に出てみたり、近隣の散歩や、法人内特養へ食材を取りに行く等、日常的に戸外へ出かけられるよう支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングの際には、自由に自分の好きなものを買えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望・必要性があればやりとりをしているご利用者もいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本家屋でその木の風合いを大切に、居間には仏壇を置くなどして、施設的な雰囲気にならないよう配慮している。	格子戸をくぐると、白梅の咲く庭に面した古民家改造型のホームが建っている。居間には、仏壇や神棚が置かれ、家庭的な雰囲気の中、それぞれが自分の家で生活しているように暮らしている。「建物が古いから掃除は頑張っています」と、少しでも暮らしやすいよう、環境整備に力を入れ、利用者にとって居心地が良く、利用者一人ひとりが自分のペースで過ごす事の出来るわが家のような共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ではお互いに気のある者同士、隣り合わせに座っておしゃべりを楽しんでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と協力しながら馴染みの品を持ってきて頂けるよう努める。また状態によって、畳敷きの部屋かベッドを使用かに変更できる。	畳の部屋やフローリング、広さもまちまちの居室には、それぞれの馴染みの家具や大切な物を、家族の協力で持ち込んで貰い、生活環境が急変しないように配慮し、その方らしい部屋作りを心掛け、利用者が安心して暮らせる環境である。利用者の状態によっては、家族の同意を得て居室替えを行い、利用者が安心、安全に暮らせるよう支援している。また、掃除、換気をこまめに行い、風が通って気持ちの良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をかけたたり、トイレの場所もわかりやすいように工夫している。		